



弘前大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻 [教職大学院]



教育科学及び教科教育学の諸科学について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教育職員等の養成を目的とする。

設置コース

ミドルリーダー養成コース
学校教育実践コース
教科領域実践コース
特別支援教育実践コース

課 題

学校教育が直面する課題とは？

全国的には…

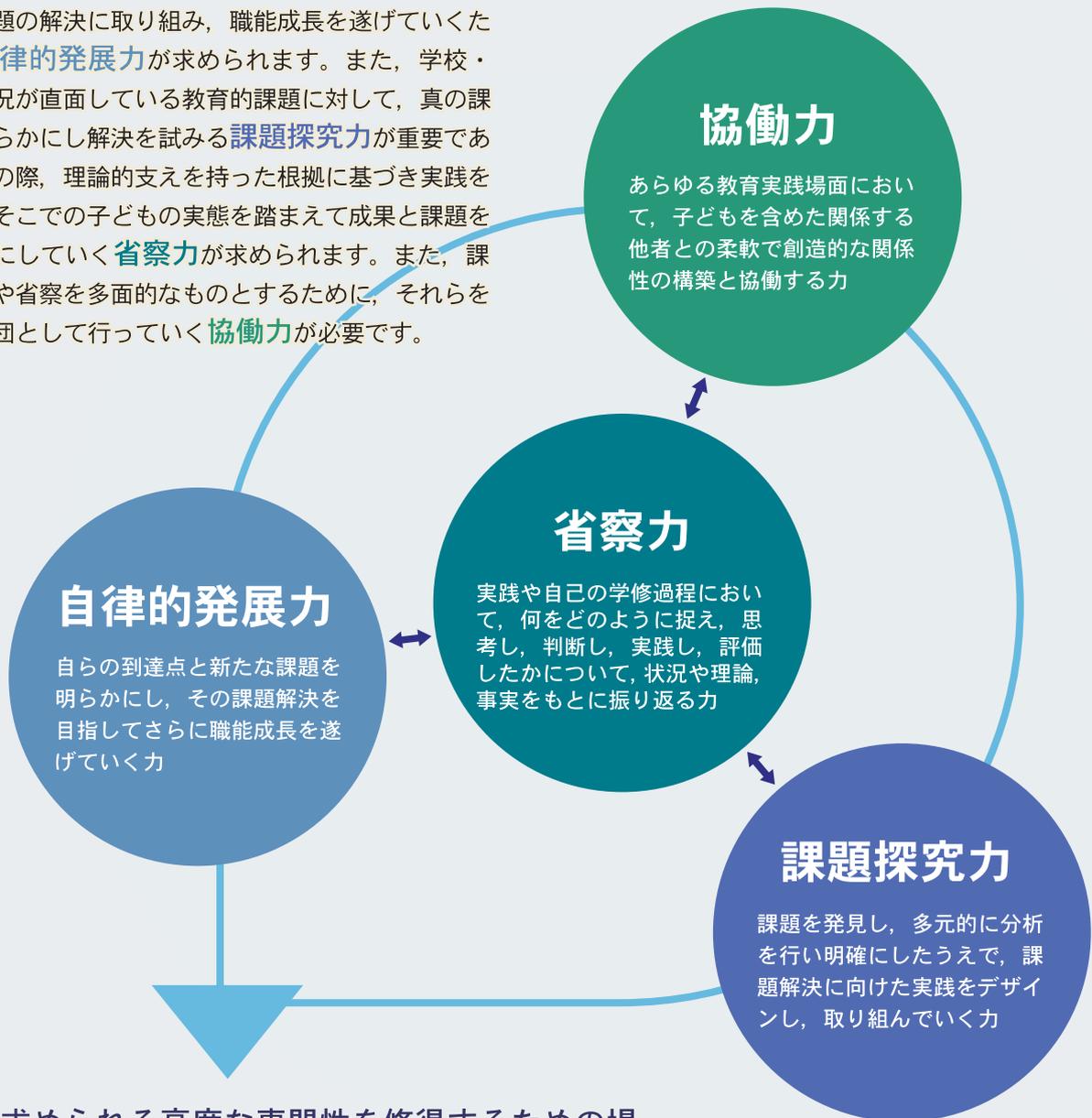
- ✓ 学習意欲や自己肯定感の低さ
- ✓ 特別な教育的ニーズ，社会経済的困難を抱える子どもの増加
- ✓ 学力の格差，人間関係形成力や健康面の不安への対応

青森県では…

- ✓ 豊かな自然を活かした環境教育
- ✓ 短命県返上を念頭においた健康教育
- ✓ インクルーシブ教育システムの構築と推進

いま、教員に求められる4つの力

いま、教員には、自らの到達点と課題を明らかにし、その課題の解決に取り組み、職能成長を遂げていくための**自律的發展力**が求められます。また、学校・社会状況が直面している教育的課題に対して、真の課題を明らかにし解決を試みる**課題探究力**が重要であり、その際、理論的支えを持った根拠に基づき実践を行い、そこでの子どもの実態を踏まえて成果と課題を明らかにしていく**省察力**が求められます。また、課題探究や省察を多面的なものとするために、それらを教員集団として行っていく**協働力**が必要です。



教員に求められる高度な専門性を修得するための場、それが、教育学研究科教職実践専攻 [教職大学院] です。そこには、教員に求められる4つの力を養成するカリキュラムが用意されています。

目的・特色

開設の目的

教育科学及び教科教育学の諸科学について、精深な教育研究を行うとともに、高度な教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教育職員等の養成を目的とする。

■設置コース・対象と養成する教員像

コース	対象	修了までに目指すこと	
ミドルリーダー養成コース	原則として青森県教育委員会が派遣予定の公立学校教員	校内研修、地域連携、教材開発などの課題に、中心となって他者と共に創造的に取り組むことのできるミドルリーダー	
学校教育実践コース	4年制大学を卒業もしくは3月末までに卒業見込みで、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・養護教諭のいずれか的一种免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者	教育課題に対応するための理論と事実に基づいた実践力・省察力を備えた若手教員	特に学校教育・教育方法・生徒指導・生徒理解及び教科外教育についての確かな専門力を持つ若手教員
教科領域実践コース			特に教科領域教育についての確かな専門力を持つ若手教員
特別支援教育実践コース	特別支援学校教諭の一種免許状を取得もしくは3月末までに取得見込みの者		特別支援教育とインクルーシブ教育システムについて確かな専門力を持つ若手教員

教育課程等の特色

- 「基礎科目」「独自テーマ科目」「発展科目」「教育実践研究科目」「実習科目」からなる「理論と実践との往還・融合」を担保するカリキュラム編成
- 「独自テーマ科目」として、青森県教育委員会から要望のあった環境教育、健康教育、インクルーシブ教育システムに関する科目を開設
- 「教育実践研究科目」「実習科目」は、理論と実践との往還・融合をより確かなものにするために関連性を持たせ、附属学校園や連携協力校、勤務校などでの実習を通して教育課題の追究・解決・検証を実践的に行う

■充実した指導体制

教職実践専攻では、教職大学院の教員を中心としながら弘前大学教育学部の教員や、他学部の教員がチームとなって、手厚い指導を行っていきます。

教員氏名	主な担当授業科目	
菊地 一文	インクルーシブ教育システムの理論と課題	特別支援教育の授業デザイン
桐村 豪文	教育経営の課題と実践	学校教育と教育行政
甲田 隆	教育相談の理論と方法	特別支援教育の制度と経営課題
小林 央美	学校安全と危機管理	養護教諭の行う健康相談の理論と実践
三戸 延聖	学校安全と危機管理	学校教育と教育行政
穴倉 慎次	教育課程の開発と実践	教育法規の理論と実践
天坂 文隆	学びの様式と授業づくり	授業づくりの理論と実践
土岐 賢悟	インクルーシブ教育システムの理論と課題	特別支援教育コーディネーターの役割と課題
中野 博之	学びの様式と授業づくり	数学科教育学特論 I
中谷 保美	学校安全と危機管理	教育実践課題解決研究
三和 聖徳	生徒指導の理論的視点と実践的視点	協働的生徒指導のマネジメント
森本 洋介	学びの様式と授業づくり	教育課程編成をめぐる動向と課題
吉田 美穂	教育における社会的包摂	現代の学校と教員をめぐる動向と課題
吉原 寛	生徒指導の理論的視点と実践的視点	教育相談の理論と方法
若松 大輔	教育課程編成をめぐる動向と課題	総合的な学習のカリキュラム開発演習

カリキュラム体系・在学院生の声

教育学研究科教職実践専攻 カリキュラム体系

ミドルリーダー養成コース

校内研修、教材開発等において、創造的に課題に取り組むことを中心となつて行うミドルリーダーの育成

《修了要件》
46単位以上

学校教育実践コース

教育課題に対応するための理論と事実に基づいた確かな実践力・省察力を備えた若手教員の育成

教科領域実践コース

特別支援教育実践コース

●実習科目 必修10単位

- ・実習ⅠA-1、A-2
 - ・実習ⅡA
 - ・実習ⅢA
- 特支専修免許取得のための実習
- ・特支実習ⅠA-1、A-2・特支実習ⅡA
 - ・特支実習ⅢA

連携協力校、教育関連施設等での実習を通して、課題の把握と仮説形成を行い、勤務校での課題解決の追究・検証を行う

●教育実践研究科目 必修4単位

- ・教育実践研究A・BⅠ
 - ・教育実践研究A・BⅡ
 - ・教育実践研究A・BⅢ
 - ・教育実践研究A・BⅣ
- ※養護教諭の専修免許取得希望者はBを選択
- 特支コース及び特支専修免許取得希望者科目
- ・特支教育実践研究Ⅰ
 - ・特支教育実践研究Ⅱ
 - ・特支教育実践研究Ⅲ
 - ・特支教育実践研究Ⅳ

『学習成果報告書』及び『教育実践研究発表会』において成果の公表



●実習科目 必修10単位

- 実習ⅠB-1、B-2
 - ・実習ⅡB・実習ⅢB・実習ⅣB
- 特支コースの実習
- ・特支実習ⅠB-1、B-2
 - ・特支実習ⅡB・特支実習ⅢB
 - ・特支実習ⅣB

連携協力校を中心とした恒常的実習等を通して、自己課題解決のための方策について実践・検証を行う

理論と実践の往還・融合

●発展科目 選択8単位以上 (各コース別科目から6単位以上選択)

*はミドルリーダー養成コース科目を6単位以上履修する現職教員院生のみ選択可能

<ミドルリーダー養成コース>

- ・学校の地域協働と危機管理
- ・学校教育と教育行政
- ・教職員の職能成長
- ・協働的生徒指導のマネジメント
- ・地域教育課題研究 (教育課程編成・教材開発)
- ・教育法規の理論と実践
- ・学校保健のマネジメント
- ・学校安全と事故防止
- ・養護実践課題解決研究 (発展)

<学校教育実践コース>

- ・教育・社会理論と教育実践
- ・実践的教育相談の課題と展開
- ・地域教育課題研究 (授業づくり)
- ・幼児児童教育の理解
- ・養護実践課題解決研究*
- ・学校保健の協働的展開*
- ・養護教諭の行う健康相談の理論と実践*
- ・学校における救急処置活動の理論と実践*
- ・教育心理学特論
- ・教育における社会的包摂の課題研究

【学部新卒院生共通科目】

- ・教育実践課題解決研究
- ・道徳の理論と授業実践のあり方*

<教科領域実践コース>

- (国、社、教、理、音、美、保、体、技、家、英)
- ・教科教育学特論Ⅰ(10科目)*
- ・教科教育学特論Ⅱ(10科目)*
- ・授業に向けた教材研究Ⅰ(10科目)*
- ・授業に向けた教材研究Ⅱ(10科目)*

<特別支援教育実践コース>

- ・授業づくりの理論と実践
- ・総合的な学習のカリキュラム開発演習*
- ・特別支援教育コーディネーターの役割と課題*
- ・特別支援教育の教育課程の実施と評価*
- ・特別支援教育の授業デザイン*
- ・個別的教育支援計画・個別の指導計画
- ・特別支援教育の制度と経営課題*
- ・発達障害児の理解と対応
- ・病弱児の心理・生体・病理
- ※特別支援学校に勤務、特別支援学級等を担当している現職教員院生は上記の科目の履修可能

●基礎科目 必修18単位

- | | |
|---------------------|------------------------------------|
| ①教育課程の編成・実施に関する領域 | ・教育課程編成をめぐる動向と課題
・教育課程の開発と実践 |
| ②教科等の実践的な指導方法に関する領域 | ・学びの様式と授業づくり |
| ③生徒指導、教育相談に関する領域 | ・生徒指導の理論的視点と実践的視点
・教育相談の理論と方法 |
| ④学級経営、学校経営に関する領域 | ・学校安全と危機管理
・教育経営の課題と実践 |
| ⑤学校教育と教員の在り方に関する領域 | ・教育における社会的包摂
・現代の学校と教員をめぐる動向と課題 |

●独自テーマ科目 必修6単位

地域の教育課題の解決に必要な知識とその実践方法について理論的に学ぶ (県教委からの要望科目)

- ・あもりの教育Ⅰ (環境)
- ・あもりの教育Ⅱ (健康)
- ・インクルーシブ教育システムの理論と課題

在学院生の声



教科領域実践コース 2年
三浦 峻敬

私は県外の大学を卒業してこの教職大学院に進学しました。学部4年次に、このまま県外に残るか、地元青森に戻るのか、教師として学校で子供たちと関わるのか、違う形で教育に関わるのか、様々に悩んでいた私にとって、自分自身と将来を見つめ直すためにも、2年間の教職大学院への進学を決めました。理学部の卒業であったため、教育学部の講義や実習も初めてであり、学校教育を中心に考えられた環境の中での学生生活は非常に新鮮でした。

1年間教職大学院に在籍して、私が特に感じたことは、共に学ぶ仲間と大学院ならではの実習です。教職大学院では、他校種他教科を志望する院生と同じ教室で学び、同じ研究室で過ごします。そのため、講義でのグループ協議や普段の会話の中で、様々な視点からの考えがあふれていて、とても刺激を受けています。また、ミドルリーダー養成コースの先生方の存在も非常に大きく、学生ではなかなか経験できない保護者との関わりや特別支援等の話のほか、様々な経験談を聞くことができたり、グループ協議の際には現場の視点から現実的な意見や理論論で終わらない鋭い観察を伝えてくれたりと、貴重な学びを頂いています。実習では、半年以上同じ学校に関わることができるため、数週間の実習では見えない学校の運営の様子や子供たちの変化を直接見ることができ、非常に貴重な経験ができていると感じています。

残り1年の大学院生活ですが、まだまだ初心を忘れず、様々な成長の機会に食らいつく精神で臨みたいと思います。大学院の先生方には、このご時勢の中でも私たち院生の学びを継続するために様々な検討に頂き、とても感謝しております。教職大学院での学びを活かし、将来教師として、学校教育に関わる身として、子供たちの成長を支えられる存在になる決意です。



学校教育実践コース 2年
葛西 泉花

私は、本学部の養護教諭養成課程から進学しました。学部時代は本当に養護教諭になるか悩んだ時期もありましたが、卒業が近づくと、教員を志望する意思が強くなりました。しかしその一方で、自分の能力に対する不安も大きくなりました。コロナ禍で養護実習の日数も減り、自分の行動に養護教諭としての明確な意図がないと感じました。そのとき参加した教職大学院の進学説明会で、「理論と実践の往還」という言葉を耳にしました。大学院の2年間で、養護教諭としての理想と向き合い、具現化する力を付けられるのではないかと考え、進学を決めました。

教職大学院では、2年間を通して実習に通います。授業や救急処置を実際に行い、その場でご指導いただける上に、大学での省察を経て、より良い実践に結びつけることができます。その「省察」の土台をつくるため、1年次は教育理論を沢山学びます。講義では対話的な学びが重視され、グループワークや発表を取り入れられます。学部時は養護教諭志望の学生と過ごす時間が多く、養護教諭ならではの視点で「当たり前」でしたが、教職大学院では校種・教科・経験年数の異なる院生が集まるため、保健室の外からの視点で考える機会が増えました。そのおかげで、今までの価値観も大切にしながら、より明確で理想的な養護教諭像を描くことができました。また、院生同士で切磋琢磨しながら課題に取り組んだことで、どんなことでも相談できる信頼関係が生まれました。今でも実習が終わると院生室に戻り、その日の実習の様子や改善点などについて語り合っています。修了後も頼りにできる、貴重な仲間ができたと思っています。

2年次となる今年は、いよいよ実践研究を行います。私は保健だよりを活用した養護実践を行います。生徒が自分の生活を振り返る良い機会となるよう、全力を尽くしたいと思います。



ミドルリーダー養成コース 2年
大平 慎悟

教職大学院のお話を校長先生よりいただいた時点では、教職大学院についての知識はほとんどなく不安な気持ちで先行していました。しかし、先輩の先生方からお話を聞いたり、大学のHPから情報を得たりし、教職大学院の取組について理解が深まるにつれ、「自己の実践を振り返り、指導力や専門性を高める良い機会」であると考えようになり進学を決めました。

大学院1年目は、慣れないレポートの作成や専門書を読みプレゼンする課題に苦労した部分もありましたが、後期日程に入る頃にはそれらの活動にも徐々に慣れ、充実した日々を過ごすことができました。講義を通してこれまで実践してきたことを、理論に照らし合わせながら省察できたこと、教育関連施設観察・様々な学校の校内研究会への参加等の実習を通して、体験的に広く知見を深めることができたことは大変有意義な時間となりました。

また、授業を共に行う中で学部卒業生の皆さんの発想力と高い学習意欲・志に触れたり現役教員院生の先生方との異校種間の情報交換や協働的な学びを行ったりしたことは、私自身の大きな刺激となり、大学生生活を楽しくより充実したものにしてくれました。皆さんと出会ったことに感謝の気持ちでいっぱいです。

2年目となる今年は、勤務校で通常の勤務を行いながら、自身の研究テーマに関する実習を行っています。勤務校にいながら、引き続き大学の先生方からオンライン通信やメールで研究についての悩みを相談させていただいたり、直接勤務校においてご指導をいただいたりする機会もあり大変心強く感じています。

今後もこれまで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、大学院での学びを少しでも多く勤務校において還元していきたい、子どもたちのためによりよい教育活動が行えるように努力を続けて参ります。

実習のモデルコース

ミドルリーダー養成コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	実習／特実ⅠA-1 (4単位/120時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 8時間×5日 (週1~2回) 連携協力校 (附属学校園・県立高校)						実習／特実ⅠA-2 (1単位/30時間) 授業実践省察実習 5時間×3日 (週1回) 連携協力校 (附属学校)					
	事実の収集の仕方 を学ぶ実習 8時間×5日 (週1~2回) 教育関連施設						公開研参加 8時間×2日 以上 連携協力校 (附属学校園)					
2 年 次	実習／特実ⅡA (3単位/90時間) 研修参加 5時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校園以外)											
	研修会企画・運営・参加 6時間×2日(週1回) 教育関連施設(青森県総合学校教育センター等)											
実習／特実ⅢA (2単位/60時間) 実習 6時間×10日以上 (月1~2回) 勤務校												
研修会企画・運営・参加 6時間×3日(週1回) 教育関連施設(弘前市教育センター等)												
教育実践研究法(教育実践研究Ⅰ)と連携												
教育実践研究Ⅱと連携												
教育実践研究Ⅲ・Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												
合計 10単位/300時間 (30時間を1単位とする)												

学校教育実践コース・教科領域実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	実習ⅠB-1 (1単位/30時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 6時間×5日(週1回) 連携協力校 (附属学校園・県立高校)						実習ⅡB (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校以外)					
	実習ⅠB-2 (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×5日以上(週1回) 連携協力校 (附属学校以外)						集中実習 6時間×5日以上 連携協力校 (附属学校以外)					
2 年 次	実習ⅢB (3単位/102時間) 学校フィールド実習 6時間×7日以上(週1回) 連携協力校(附属学校以外)											
	集中実習 6時間×10日以上 連携協力校 (附属学校以外)											
実習ⅣB (2単位/72時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校(附属学校園以外)												
教育実践研究Ⅲと連携												
教育実践研究Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												
合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)												

特別支援教育実践コース

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年 次	特別支援教育実習ⅠB-1 (1単位/30時間) 事実の収集の仕方 を学ぶ実習 6時間×5日(週1回) 連携協力校 (附属学校・県立高校)						特別支援教育実習ⅡB (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校					
	特別支援教育実習ⅠB-2 (2単位/60時間) 学校フィールド実習 6時間×5日以上(週1回) 連携協力校						集中実習 6時間×5日以上 連携協力校					
2 年 次	特別支援教育実習ⅢB (3単位/102時間) 学校フィールド実習 6時間×7日以上(週1回) 連携協力校											
	集中実習 6時間×10日以上 連携協力校											
特別支援教育実習ⅣB (2単位/72時間) 学校フィールド実習 6時間×12日以上(週1回) 連携協力校												
特支教育実践研究Ⅲと連携												
特支教育実践研究Ⅳと連携												
教育実践研究発表会												
合計 10単位/324時間 (30時間を1単位とする)												

県教育委員会等との連携

教育実践を創造しリードするための資質能力を備えた教員の養成に向けて

県教育委員会では、教育施策の方針に「郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を掲げ、子どもたちが社会の中で自立した人間として成長できるよう、「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」に向けた学校教育の推進に取り組んでおります。

その中において、学校教育の直接の担い手である教員には、教育者としての使命感や誇り、子どもに対する教育的愛情などの「人間力」、教科等に対する専門的知識や技能などの「指導力」、そして、家庭・地域社会と連携を図り学校として組織的対応ができる「マネジメント力」の向上が求められます。

教職大学院では、本県の教育課題を重点的に学ぶことができる科目群の設定や、大学院生一人一人の研究課題に対応できる指導体制の充実など、高度な教育実践を創造し

リードするための資質能力を備えた教員の養成に取り組まれています。

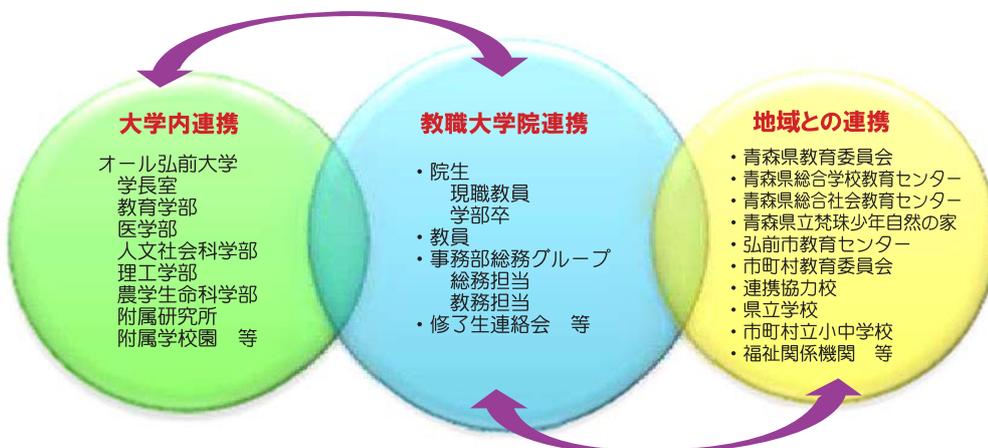
本県の現職教員が、校内研修、教材開発等において、創造的に課題に取り組むことを中心となっていくミドルリーダーになること、また、現職教員とともに学び、確かな実践力、省察力を育んだ大学院生が、若手教員として各学校で活躍していくことを切望しております。

そのためにも、教職大学院には教員養成・教員研修にとどまらず教員同士のネットワークを形成する場となり、県及び市町村教育委員会と連携しながら、本県教育を理論・実践両面において牽引していく拠点となることを期待しております。



青森県教育委員会教育長 和嶋 延寿

プロフェッショナルチームを拓く協働的運営体制



教職大学院の教育力を地域へ還元する連携協働システム

県教育委員会との連携・協働により、教職生活全体を通じた職能成長の実現

- ▶ 青森県の今と未来をつくる子どもたちを支える教員の資質・能力の持続可能な向上
- ▶ 教職大学院の教育力を現職教員の研修を通して各地域へ還元



青森県教育委員会等との連携による観察実習風景



青森県教育庁



県総合学校教育センター



県総合社会教育センター



県立梵珠少年自然の家



弘前市教育委員会

詳細は、大学ホームページ、学生募集要項をご覧ください。

教職実践専攻 [教職大学院] 募集人員及び選抜方法

コース	募集人員		試験内容
ミドルリーダー養成コース	一般選抜	8名程度	学力検査として「口述試験(入学希望等調書及び教育実践概要の記載内容に関する審査を含む)」を課す
学校教育実践コース 教科領域実践コース 特別支援教育実践コース	一般選抜	10名程度	学力検査として「筆記試験」「口述試験(模擬授業を含む)」を課す
	推薦特別選抜	上記のうち若干名	学力検査として「口述試験(模擬授業を含む)」を課す
	合計	18名	

■学位の名称

教職修士(専門職)
(Master of Education)

■取得できる免許状

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状(各教科)
- 高等学校教諭専修免許状(各教科)
- 特別支援学校教諭専修免許状
- 養護教諭専修免許状

■学費

- 入学金……………282,000円*(予定)
- 授業料……………535,800円(年額)(予定)

教職実践専攻 [教職大学院] 入試日程

	出願期間	試験実施日	合格発表
推薦特別選抜(第1期)	令和4年8月29日(月)～9月2日(金)	令和4年10月1日(土)	令和4年10月13日(木)
推薦特別選抜(第2期)	令和4年11月7日(月)～11月11日(金)	令和4年11月26日(土)	令和4年12月8日(木)
一般選抜(第1期)	令和4年8月29日(月)～9月2日(金)	令和4年10月1日(土)	令和4年10月13日(木)
一般選抜(第2期)	令和4年11月7日(月)～11月11日(金)	令和4年11月26日(土)	令和4年12月8日(木)
一般選抜(第3期)	令和4年12月12日(月)～12月16日(金)	令和5年1月7日(土)	令和5年1月19日(木)

- ※ 合格者数の合計が18名に達した場合、コースによっては以降の募集を実施しない場合があります。
- ※ 今後、新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、募集要項の公表後や出願期間後であっても、やむを得ず、試験期日や選抜方法の変更等の緊急措置を実施する場合があります。
- ※ 上記の緊急措置を実施する場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。

教職実践専攻 [教職大学院] 進学説明会

進学説明会

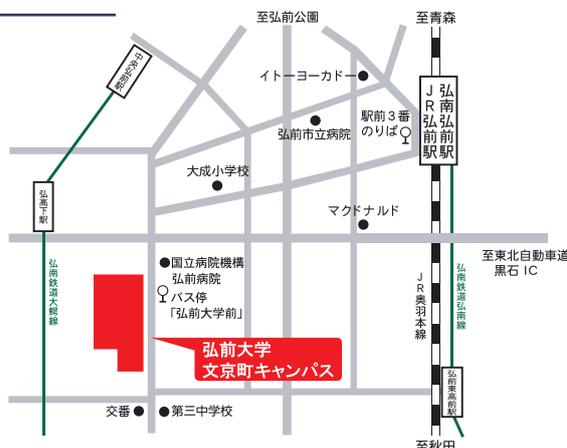
第1回	令和4年7月27日(水)	16:00～	弘前大学教育学部を会場に実施予定です。 ただし新型コロナウイルス感染拡大によっては、やむを得ず変更する場合があります。その場合は、ホームページ等でお知らせしますのでご留意願います。
第2回	令和4年10月26日(水)	16:00～	
第3回	令和4年12月9日(金)	16:00～	

ACCESS MAP

JR弘前駅からのアクセス

- (1) 徒歩：約20分
- (2) バス：約10分
駅前3番のりば乗車、「弘前大学前」下車
- (3) タクシー：約5分

※道路状況により所要時間が変わりますのでご注意ください。



HIROSAKI
UNIVERSITY

国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 弘前市文京町1番地 Tel.0172-36-2111 (代表)
<https://www.hirosaki-u.ac.jp>

[連絡先] 担当：教育学部総務グループ Tel.0172-39-3314
教育学部総務グループ(教務担当) Tel.0172-39-3939